



No.122
2003-5-17

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階
電話 / FAX : 03-5251-2133 e-mail : jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

公 示

下記の要領で第19回通常総会を開催致します。

正会員には、委任状のハガキを同封しております。当日欠席の場合は、委任状にご記入の上、記名捺印して 5月30日(金)までに、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 2003年6月7日(土) 12:00~13:00
2. 会 場 東京工業大学 西9号館 デジタル多目的ホール
(東京都目黒区大岡山2-12-1)
3. 議 事
 - 1) 第1号議案 2002年度(2002.4.1-2003.3.31)事業報告および収支決算承認の件
 - 2) 第2号議案 2003年度(2003.4.1-2004.3.31)事業計画案および収支予算案承認の件
 - 3) 第3号議案 会長, 理事, 監事, 評議員の選任の件

2003年5月10日

日本教育工学会 会長 清水康敬

本号目次

| | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 公示 ----- 1 | 第19回全国大会のお知らせ(第2報) ----- 12 |
| 議案書 ----- 2 | 課題研究発表申込書 ----- 20 |
| 2003年度6月のシンポジウム案内 ----- 7 | 原稿見本と原稿提出表 ----- 21 |
| 研究会開催案内・研究会の発表募集 ----- 8 | 第9期第15回理事会議事録 ----- 23 |
| 夏の合宿研究会予告/キーワード解説 ----- 11 | 新入会員/学会日誌等 ----- 24 |

1) 第1号議案 2002年度事業報告および収支決算

2002年度に実施した事業は次のとおりである。(事業費 15,378,023円)

(1) 機関誌等 (11,950,835円)

1. 「日本教育工学会論文誌」第26巻1号~4号, 「日本教育工学会誌」第26巻増刊号および英文誌第25巻1.2号(合併号)を会員に配付した。(10,787,333円)
2. 「ニューズレター」No.116 ~ No.121を刊行し会員に配付した。(1,163,502円)

(2) 総会

日本教育工学会第18回通常総会を東京工業大学で開催(2002/6/8)した。

(3) 大会

日本教育工学会第18回大会を長岡技術科学大学で開催(2002/11/2-4)した。
また, 「第18回大会講演論文集」を刊行し, 申込者に配布した。

(4) 研究会の開催 (2,095,820円)

次の研究会を開催し, 「日本教育工学会 研究報告集」JET 02-3 ~ JET 03-2を申込者に配布した。

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 「教育のIT化とメディアリテラシーの育成」研究会 | (2002/5/25: 大分県立芸術文化短大) |
| 『『総合的な学習』と評価』研究会 | (2002/7/27: 岩手大学) |
| 「遠隔教育と協調学習による新しい学習環境のデザイン」研究会 | (2002/9/28: 上越教育大学) |
| 「高等教育におけるFDと教育工学」研究会 | (2002/12/14: 早稲田大学) |
| 「教育工学的アプローチによる教科教育の改革」研究会 | (2003/1/25: きのくに志学館) |
| 「情報教育における教員研修と授業改革」研究会 | (2003/3/29: 茨城大学) |

(5) 企画委員会関係 (596,368円)

a) シンポジウム

総会にあわせ以下のシンポジウムを開催した。(2002/6/8: 東京工業大学)

午前: テーマ: 「学校との共同研究・研究支援のあり方を問う」

午後: テーマ: 「教育用コンテンツ開発の潮流」

b) 次の研修講座

次の研修講座(合宿研究会)を開催した。

第40回研修講座 夏の合宿研究会 (2002/8/17-18: 長崎市)

テーマ: インターネットを利用した遠隔教育の現状と将来

第41回研修講座 秋の産学共同セミナー (2002/11/8: 東京大学理学部)

テーマ: e-learningによるリカレント教育

第42回研修講座 冬の合宿研究会 (2003/2/14-15: 福島県郡山市)

テーマ: 「総合的な学習の時間」の実践と評価

第43回研修講座 春の特別企画 (2003/3/15-16: 京都府相楽郡)

ワークショップ: 学習環境デザインの方法と評価

(6) 学会ホームページによって, 学会情報を提供した。

(7) 2002年度年度末(3/31)会員総数: 2,010名

内訳; 正会員 1,637名, 准会員 112名, 学生会員 229名, 名誉会員 2名,
維持会員 25社, 特殊会員 5団体

2002年度 収支決算（自2002.4.1～至2003.3.31）

1. 収入の部

| 科 目 | 決 算 額 | 当初予算額 | 差 額 |
|----------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 1. 会費（～の合計） | 16,188,000 | 14,655,000 | 1,533,000 |
| 正会員会費 | 12,501,000 | 11,700,000 | 801,000 |
| 准会員会費 | 418,000 | 330,000 | 88,000 |
| 学生会員会費 | 1,210,000 | 825,000 | 385,000 |
| 維持会員会費 | 1,300,000 | 1,250,000 | 50,000 |
| 特殊会員会費 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| 過年度分 | 709,000 | 500,000 | 209,000 |
| 2. 入会金 | 271,000 | 200,000 | 71,000 |
| 3. 事業収入（～の合計） | 7,120,260 | 6,700,000 | 420,260 |
| 論文別刷代 | 2,214,333 | 2,000,000 | 214,333 |
| 学会誌販売 | 1,005,283 | 1,200,000 | 194,717 |
| 研究会収入 | 2,415,000 | 3,000,000 | 585,000 |
| 全国大会収支差 | 1,485,644 | 500,000 | 985,644 |
| 4. 助成金 | 0 | 0 | 0 |
| 5. 雑収入 | 878,309 | 300,000 | 578,309 |
| 6. 積立金取り崩し | 400,000 | 400,000 | 0 |
| 7. 前年度からの繰越 | 3,502,413 | 3,502,413 | 0 |
| 収 入 合 計 | 28,359,982 | 25,757,413 | 2,602,569 |

2. 支出の部

| 科 目 | 決 算 額 | 当初予算額 | 差 額 |
|---------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 1. 管理費（～合計） | 9,787,805 | 9,600,000 | 187,805 |
| 役員等会議費 | 141,881 | 300,000 | 158,119 |
| 事務局費 | 1,003,460 | 1,200,000 | 196,540 |
| 旅費交通費 | 1,561,500 | 1,500,000 | 61,500 |
| 通信運搬費 | 3,361,421 | 3,000,000 | 361,421 |
| 消耗品費 | 792,703 | 500,000 | 292,703 |
| 複写・印刷経費 | 334,880 | 500,000 | 165,120 |
| 諸謝金 | 2,555,000 | 2,500,000 | 55,000 |
| 雑費 | 36,960 | 100,000 | 63,040 |
| 2. 事業費（～合計） | 15,378,023 | 14,100,000 | 1,278,023 |
| 機関紙等 | 11,950,835 | 9,700,000 | 2,250,835 |
| a. 論文誌/学会誌 | 10,787,333 | 8,500,000 | 2,287,333 |
| b. ニュースレター | 1,163,502 | 1,200,000 | 36,498 |
| 研究会 | 2,095,820 | 3,000,000 | 904,180 |
| 企画委員会 | 596,368 | 600,000 | 3,632 |
| 会員名簿 | 735,000 | 800,000 | 65,000 |
| 3. 予備費 | 0 | 2,098,493 | 2,098,493 |
| 4. 積立金（～の合計） | 0 | 0 | 0 |
| 学会改革 | 0 | 0 | 0 |
| 会員名簿 | 0 | 0 | 0 |
| 5. 次年度繰越金 | 3,194,154 | 0 | 3,194,154 |
| 支 出 合 計 | 28,359,982 | 25,798,493 | 2,561,489 |

（注） 2003年度以降の前納金額 年会費：3,942,500円、研究会報告集代：710,500円

2) 第2号議案 2003年度事業計画案および収支予算案

2003年度に実施する事業計画は次のとおりである。(事業費 14,800,000円)

(1) 機関誌等 (12,200,000円)

1. 「日本教育工学会論文誌」第27巻1号~5号(内1号はショートレター特集号), および英文誌第26巻1.2号(合併号)を会員に配付する。(11,000,000円)
2. 「ニューズレター」No.122~ No.127を刊行し, 会員に配付する。(1,200,000円)

(2) 総会

日本教育工学会第19回通常総会を, 東京工業大学で開催(2003/6/7)する。

(3) 大会

日本教育工学会第19回大会を, 岩手県立大学で開催(2003/10/11-12)する。
また, 「大会講演論文集」を刊行し, 申込者に配布する。

(4) 研究会委員会 (2,000,000円)

研究会を年6回開催し, 「日本教育工学会研究報告集」JET03-3~JET04-2を申込者に配布する。

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 「社会的構成主義指向の教育」研究会 | (2003/5/31:長崎大学) |
| 「学力低下と授業改善」研究会 | (2003/7/27:滋賀大学) |
| 「情報教育と評価」研究会 | (2003/9/20:鳥取大学) |
| 「地域コミュニティの教育力」研究会 | (2003/11:東北地方で調整中) |
| 「協調学習とe-Pedagogy」研究会 | (2004/1:電気通信大学) |
| 「教師の資質開発(教育方法, 運営能力, 責任)」研究会 | (2004/3:岐阜大学で調整中) |

(5) 企画委員会 (600,000円)

次のシンポジウムおよび研修講座(合宿研究会)を開催する。

a) シンポジウム (2003/6/7:東京工業大学)

午前: テーマ: 「教育工学研究と論文のまとめ方」(学会員向き)

午後: テーマ: 「新しい学力を意図した学習デザインの取り組み」

b) 研修講座

- | | | |
|----------|---------|-------------|
| 第44回研修講座 | 夏の合宿研究会 | (2003/夏:岡山) |
| 第45回研修講座 | 秋のセミナー | (2003/秋:東京) |
| 第46回研修講座 | 冬の合宿研究会 | (2004/冬:未定) |
| 第47回研修講座 | 春の特別企画 | (2004/春:未定) |

(6) 学会ホームページによって, 学会情報の提供をする。

(7) 学会創立20周年記念事業の企画を行う。

2003年度 収支予算案 (自2003.4.1 ~ 至2004.3.31)

1. 収入の部

| 科 目 | 前年度決算 | 予 算 額 | 備 考 |
|-------------------------|-------------------|-------------------|----------------|
| 1. 会費 (~ の合計) | 16,188,000 | 14,985,000 | |
| 正会員会費 | 12,501,000 | 11,700,000 | 9,000円 × 1300名 |
| 准会員会費 | 418,000 | 385,000 | 5,500円 × 70名 |
| 学生会員会費 | 1,210,000 | 1,100,000 | 5,500円 × 200名 |
| 維持会員会費 | 1,300,000 | 1,250,000 | 50,000円 × 25口 |
| 特殊会員会費 | 50,000 | 50,000 | 10,000円 × 5機関 |
| 過年度分 | 709,000 | 500,000 | |
| 2. 入会金 | 271,000 | 250,000 | 1,000円 × 250名 |
| 3. 事業収入 (~ の合計) | 7,120,260 | 6,500,000 | |
| 論文別刷代 | 2,214,333 | 2,000,000 | 論文誌、英文誌 |
| 学会誌販売 | 1,005,283 | 1,000,000 | 学会事務センター委託を含む |
| 研究会収入 | 2,415,000 | 2,500,000 | 年6回開催 |
| 全国大会収支差 | 1,485,644 | 1,000,000 | 第19回大会 |
| 5. 雑収入 | 878,309 | 300,000 | 資料販売、利息等 |
| 6. 積立金取り崩し | 400,000 | 0 | 会員名簿作成しない年 |
| 7. 前年度からの繰越 | 3,502,413 | 3,194,154 | |
| 収 入 合 計 | 28,359,982 | 25,229,154 | |

2. 支出の部

| 科 目 | 前年度決算 | 予 算 額 | 備 考 |
|------------------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 1. 管理費 (~ 合計) | 9,787,805 | 9,750,000 | |
| 役員等会議費 | 141,881 | 200,000 | 理事会等開催費 |
| 事務局費 | 1,003,460 | 1,000,000 | 事務局経費等 |
| 旅費交通費 | 1,561,500 | 1,500,000 | 理事交通費等 |
| 通信運搬費 | 3,361,421 | 3,500,000 | 発送費、連絡費等 |
| 消耗品費 | 792,703 | 500,000 | 文房具、封筒印刷等 |
| 複写経費 | 334,880 | 500,000 | 事務局コピー等 |
| 諸謝金 | 2,555,000 | 2,500,000 | 学会事務処理等 |
| 雑費 | 36,960 | 50,000 | 送金手数料、その他 |
| 2. 事業費 (~ 合計) | 15,378,023 | 14,800,000 | |
| 機関紙等 | 11,950,835 | 12,200,000 | |
| a. 論文誌/学会誌 | 10,787,333 | 11,000,000 | 論文誌5回/英文誌1回 |
| b. ニュースレター | 1,163,502 | 1,200,000 | 年6回 |
| 研究会 | 2,095,820 | 2,000,000 | 研究会年6回開催 |
| 企画委員会 | 596,368 | 600,000 | シンポジウム、合宿研究会 |
| 会員名簿 | 735,000 | 0 | 会員名簿作成しない年 |
| 3. 予備費 | 0 | 279,154 | |
| 4. 積立金 (~ の合計) | 0 | 400,000 | |
| 学会改革 *1) | 0 | 0 | |
| 会員名簿 | 0 | 400,000 | 会員名簿作成しない年 |
| 5. 次年度繰越金 | 3,194,154 | 0 | |
| 支 出 合 計 | 28,359,982 | 25,229,154 | |

*1) 積立金 1990年度 1,000,000円 1991年度 2,000,000円 1992年度 2,000,000円
 1993年度 1,000,000円 1994年度 1,000,000円 1995年度 6,000,000円
 1996年度 5,000,000円 1997年度 4,000,000円 1998年度 5,000,000円
 1999年度 4,000,000円 2001年度 5,000,000円 累計 36,000,000円

3) 第3号議案 会長, 理事, 監事, 評議員の選任

正会員と名誉会員あてに, 役員半数改選の選挙を公示し, 5/3 に投票を締切り, 5/8 に開票した。その結果, 次のように役員候補者が確定したので, 提案する。

任期は定款第24条により, 会長は2年(2005年度総会まで), 理事, 監事, 評議員は4年(2007年度総会まで)とする。

評議員については, 選挙による選出5名のほか, 定款第21条にもとづき, 会長指名の評議員を加えた。ただし, *印は前任者の残任期間となるため任期は2年(2005年度総会まで)。

会長(1名)

1. 清水 康敬

理事(12名)(五十音順)

- | | | | | | |
|-----------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 生田 孝至 | 2. 木原 俊行 | 3. 黒上 晴夫 | 4. 向後 千春 | 5. 近藤 勲 | 6. 澤本 和子 |
| 7. 三宮 真智子 | 8. 永岡 慶三 | 9. 南部 昌敏 | 10. 堀田 龍也 | 11. 村川 雅弘 | 12. 山西 潤一 |

監事(1名)

1. 今栄 国晴

評議員(15名)(五十音順)

- | | | | | |
|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| 1. 赤倉 貴子 | 2. 赤堀 侃司 | 3. 伊藤 紘二 | 4. 植野真臣* | 5. 浦野 弘* |
| 6. 竹谷 誠 | 7. 永野 和男 | 8. 成田 雅博 | 9. 東原 義訓 | 10. 松居 辰則 |
| 11. 室田 真男* | 12. 矢野 米雄 | 13. 山内 祐平* | 14. 吉田 貞介 | 15. 米澤 宣義* |

<参考>

留任理事(12名)(五十音順、2005年度総会まで)

- | | | | | | |
|----------|---------|----------|------------|-----------|-----------|
| 1. 池田 満 | 2. 大谷 尚 | 3. 坂元 昂 | 4. 正司 和彦 | 5. 鈴木 克明 | 6. 園屋 高志 |
| 7. 中村 紘司 | 8. 中山 実 | 9. 前迫 孝憲 | 10. 美馬 のゆり | 11. 横山 節雄 | 12. 吉崎 静夫 |

留任監事(1名、2005年度総会まで)

1. 水越 敏行

留任評議員(5名)(五十音順、2005年度総会まで)

- | | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 大隅 紀和 | 2. 中村 直人 | 3. 野嶋 栄一郎 | 4. 本間 明信 | 5. 村瀬 康一郎 |
|----------|----------|-----------|----------|-----------|

2003年度 6月のシンポジウム

日本教育工学会2003年度6月のシンポジウムを以下のように行います。午前中は主として学会員を対象として、「教育工学研究と論文のまとめ方」と題して、教育工学が扱う研究内容や実践研究論文のまとめ方を中心に、編集者から見た論文作成のポイントなど、学会員の皆さんの日頃の研究成果を学会誌に量的にも質的にも反映させ、教育工学の知見を共有化する方策を議論したいと思います。

また、午後は、一般の方々の参加を得て、教育改革が叫ばれる中で、小学校から中学校、高等学校、大学そして教育系NPOにおいて試みられ始めている「新しい学力を意図した学習デザインの取り組み」について考えてみたいと思います。学力観、制度やカリキュラムの問題など教育改善の動きの中で生じる様々な課題とその解決に向けてのアイデアを具体的な取り組み事例をもとに皆様と考えたいと思います。

興味関心のおありの方々の多数の参加を期待しています。なお、参加希望者は当日受付にて直接お申し込み下さい。開始30分前より受付を行っております。参加費は無料ですが、資料代として、500円が必要です。

日 時：平成15年6月7日(土) 午前10時 - 16時
会 場：東京工業大学 西9号館デジタル多目的ホール(大岡山)
東京都目黒区大岡山2-12-1：東急大井町線、目黒線、大岡山下車

午前の部：午前10時 - 12時 シンポジウム1 (教育工学会員向け) 「教育工学研究と論文のまとめ方」

基 調 提 言：清水康敬(前 日本教育工学会 編集長)
パネル討論：編集者から見たワンポイントアドバイス
パネリスト：赤堀侃司(東京工業大学)、中山実(東京工業大学)、大谷尚(名古屋大学)
司 会：永野和男(聖心女子大学)

午後の部：午後2時 - 4時 シンポジウム2 (会員及び一般参加者向け) 「新しい学力を意図した学習デザインの取り組み」 小学校から高校、大学における教育改革の取り組み

挨 拶：日本教育工学会 清水康敬 会長
パネリスト：小林毅夫(上越教育大学、前新潟県教育委員会)
西泰弘(熊本県立教育センター、前熊本県立鹿本高等学校)
苅宿俊文(大東文化大学、NPO学習環境デザイン工房)
美馬のゆり(公立はこだて未来大学)
司 会：村川雅弘(鳴門教育大学)



研究会の開催

テーマ 社会的構成主義指向の教育

日 時：2003年5月31日(土)

会 場：長崎大学 教育学部棟2階SCS教室(文教地区キャンパス)

開催担当：大作勝(長崎大学 アドミッションセンター)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

開会 9:30 (A会場)

午前の部(9:35~11:40) A会場

- (1) 「社会的構成主義を指向した授業のデザイン」
佐々木弘記(岡山県教育センター)
- (2) 「構成主義アプローチの授業への導入の問題」
新城岩夫(名古屋学院大学)
- (3) 「社会的構成主義指向の特別支援教育の試行」
大杉成喜(国立特殊教育総合研究所), 正司和彦(兵庫教育大学)
- (4) 「混用回避を意図した共同学習の定義に関する提案」
関田一彦(創価大学), 安永悟(久留米大学)
- (5) 「協調学習を支援するデジタルポートフォリオ「CoCoFolio」の開発と授業実践」
倉恒子・寛直之(NTT), 杉山武志(NTTコミュニケーションズ), 小西宏志(NTT)

午前の部(9:35~11:40) B会場

- (1) 「大学教員の研究教育活動に必要なコンピュータリテラシーを習得するための研修活動とその実施 - 長崎大学教育学部における実施例 -」
大作勝(長崎大学アドミッションセンター), 中村千秋・橋本健夫(長崎大学教育学部)
- (2) 「大学院教育に係る博士課程のカリキュラムビジョンについて」
北垣郁雄(広島大学)
- (3) 「韓国の新教育課程と情報教育」
孔泳泰(韓国 釜山大学校科学教育学部)
- (4) 「授業シーンにおける情報教育の実践と評価」
岸誠一・藤本義博・太田淳一・平松茂(岡山県情報教育センター), 宮本元恵・濱本豊(岡山市立伊島小学校)

お昼休み(11:40~13:00)

【特別講演】(13:00~14:00) A会場

「社会構成主義から見た教育の混乱」 - 教育学からの問題提起 -
岡本敏雄(電気通信大学大学院)

午後の部(14:10~15:00) A会場

- (6) 「時間解像度の違いが文字スクロールでの学習に与える影響」
山下浩次(長崎大学教育学研究科), 藤木卓・森田裕介(長崎大学教育学部), 松本浩明(長崎県立長崎工業高等学校), 里慎也(長崎県教育センター), 倉田伸(創成館高等学校), 山道一平(名古屋市立城西小学校), 森美樹(長菱ソフトウェア(株))
- (7) 「学校等におけるインターネットライブ配信の実践」
岡野和真・藤本義博・太田淳一・中西崇・熊代徹・岸誠一・平松茂(岡山県情報教育センター), 関和久(岡山県立玉野光南高等学校), 近藤勲(岡山大学教育学部)

午後の部(14:10~15:00) B会場

- (5) 「DVTS, MPEG2TSを用いた遠隔伝送実験の画質に関する考察」
藤木卓(長崎大学教育学部), 蒲原弘貴(日本電子計算(株)), 森田裕介(長崎大学教育学部), 松岡輝((株)富士通ビジネスシステム), 柳生大輔(長崎大学総合情報処理センター)
- (6) 「遠隔授業参観と遠隔授業反省会における高品質動画伝送システムの特性比較」
森田裕介(長崎大学), 松岡輝((株)富士通ビジネスシステム), 藤木卓(長崎大学教育学部), 蒲原弘貴(日本電子計算(株))

【パネル討論会】(15:15~17:15) A会場

テーマ：「社会的構成主義指向の教育」

パネリスト：

大作勝（長崎大学），近藤勲（岡山大学），正司和彦（兵庫教育大学），西之園晴夫（佛教大学）

司会：岡本敏雄（電気通信大学大学院）

閉会の挨拶 17:20 岡本敏雄 研究会委員長（A会場）

会場：長崎大学教育学部（文教地区キャンパス）

〒852-8521 長崎市文教町1-14

A会場：2階SCS教室，B会場：同1階11番教室
（受付はB会場の方へお越してください）

・周辺地図：

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/access.html#BUNKYO>

（交通手段などはこちらをご覧ください）

・文教地区キャンパス地図：

http://www.nagasaki-u.ac.jp/guidance/acs_cps1.html

・アクセス方法

長崎空港から

長崎方面行きバス（約50分），昭和町バス停下車徒歩約10分．

長崎駅前から

路面電車または長崎バス（約20分），長崎大学前停留所下車徒歩．

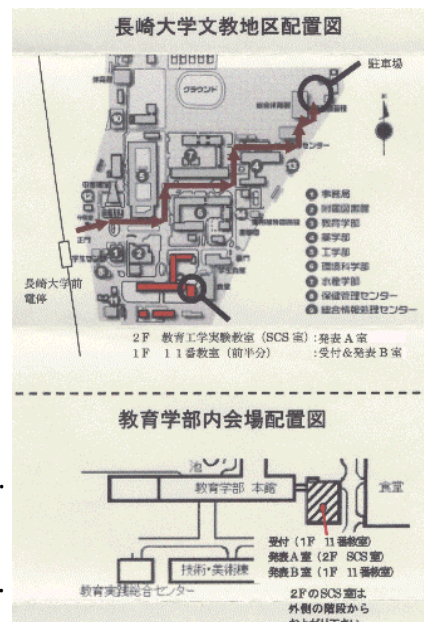
懇親会：

研究会終了後に懇親会を計画しています．多くの方々の参加をお待ちしております．参加される方は会場担当の大作先生までご連絡下さい．

連絡先メールアドレス：ohsaku@net.nagasaki-u.ac.jp

会場連絡先：

（大作勝）Tel. 095-819-2115，（藤木卓）Tel. 095-819-2363



研究会の発表募集

学力低下と授業改善



学力低下と授業改善

日 時：2003年7月27日（日）

会 場：滋賀大学教育学部（石山キャンパス）（大津市）

開催担当：宮田仁（滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター）

申込締切：2003年6月13日（金）

原稿提出：2003年6月27日（金） PDF形式で電子的に提出もできます。

募集内容：

最近，小・中・高等学校や大学での学力の低下が指摘されており，少人数学級の導入や習熟度別学級編成，あるいはチーム・ティーチング等，制度的な改革も進められています．従来より，教育工学の分野では，授業改善を目指して学習指導法を開発したり，授業改善のための種々の教材開発研究が行われてきました．そこで，今回の研究会では学力低下と授業改善を主題として取り上げ，このテーマに教育工学がどう貢献できるかに関して，学習理論からのご提案やご発表，教育実践研究からのご発表を広く募集いたします．また，教育工学一般の発表もお待ちしておりますので，奮って御応募ください．

応募方法：研究会Web Pageの「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください．なお，当該研究会の「発表申込状況」で申し込まれた方の氏名が確認できます．

申し込み締切：2003年6月13日（金）です．締切後，申し込まれた方宛に折り返し発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします．また，採択された方には執筆要項を電子メールにて送付いたします．

原稿提出期限：2003年6月27日（金）必着（厳守！）でお願いいたします．執筆要項に記載された宛先にお送りください．なお，PDF形式（サイズは1Mバイト未満）での原稿の電子的な提出を受け付けます．提出先は，学会本部事務局（jet-submit@nime.ac.jp）です．電子メールに添付して送ってください．

研究会の報告



3月29日(土)に茨城大学教育学部水戸キャンパスにおいて「情報教育における教員研修と授業改革」をテーマに研究会が開催されました。年度末の開催にもかかわらず、参加者は41名、発表件数は18件と多数の参加を得ることができました。発表は、大学



における授業設計支援や授業訓練システム、小中高校における教材開発や授業評価、教員研修や協調学習システムの開発など研究会テーマにふさわしい多様な中身の濃い内容のものとなり、また、それぞれの発表に対して活発な質疑や意見交換が行われました。今回は一日の日程で一会場で実施できるぎりぎりの発表件数でした。議論の時間が十分に取れなかったり、途中の休憩などもままならない強行日程となってしまいましたが、結果として2会場に分散するなどの措置を取らずに実施して正解であったと思われま。なぜなら研究会は設定された共通テーマの下でひざを突き合わせて、熱気あふれる中にも肩肘張らずに意見交換や議論をするのに大変ふさわしい場だと考えられるからです。年度末のお忙しいなか、参集していただいた皆様のおかげで盛会となりましたことを感謝いたします。

3月研究会開催担当：本田敏明(茨城大学教育学部)

研究会の今後の予定

2003年度の研究会は、今後、以下のように予定されています。(※は依頼中または検討中です)

| | | |
|---------|-----------------------------------|---------|
| 9月20日 | 『情報教育と評価』(教育測定・評価の理論・方法論も含む) | 鳥取大学 |
| 11月 | 『地域コミュニティの教育力』 | 東北地方(※) |
| 2004年1月 | 『協調学習とe-Pedagogy』 | 電気通信大学 |
| 2004年3月 | 『教師の資質開発(教育方法, 運営能力, 責任)』 | 岐阜大学(※) |
| 2004年5月 | 『総合的な学習の時間と評価』(教育測定・評価の理論・方法論も含む) | 兵庫県内(※) |

会場では、発表者との質疑はもちろんですが、同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まり、さまざまな方と意見交換する場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育学工領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただきたいと思います。

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計500ページほどになります。価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望・魅力的な研究会テーマの提案・研究会での企画などお気軽に研究会幹事、委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

(研究会全般, 研究会 Web Page, 研究会発表の申込, 変更等, 原稿執筆) に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

(年間購読, 原稿提出) に関するお問い合わせ

学会本部事務局 jet-office@japet.or.jp

2003年度 夏の合宿研究会予告

テーマ：「デジタル・コンテンツを活用した教育実践」

日時： 9月13日(土)午前9時～14日(日)午後15時

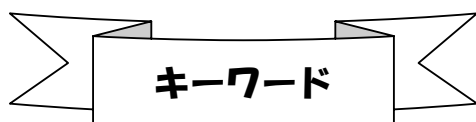
会場： UIゼンセン中央教育センター「友愛の丘」

〒709-311 岡山県御津郡建部町福渡1188

協力： 岡山大学、岡山県教育工学協議会、教育委員会等

詳細については、次のニューズレターでお知らせします。

会場を予定している岡山県は、情報教育教材や教育用のコンテンツの開発を始め早くから教育工学に取り組んでいる地域です。また、総合的な学習の時間の先進的な実践校なども擁している地域でもあります。多数の参加をお待ちしています。



「問題解決支援」

現実の問題を解決する能力としての知恵(文化)の継承は、継承するグループが実世界のコンテキストを背景にした問題の解決過程を通して、作業に伴う説明が可能な知恵を再構成することによって可能となるが、こうした知恵には、問題に対する態度、問題解決のための方略、対象世界に見出される制約としての知識、世界を分節して把握する枠組みとしての概念、の4種類のものがある。

このような問題解決を支援するコンピュータ利用システムが持つべき機能として、次の4つが区別される。

- (1) 思考の外化のための対話的表現操作ツール：
必須であった鉛筆と紙を置きえ、分散知を分け持つ。
- (2) コミュニケーションのためのツール：
共同作業場を提供し、対話と作業の記録、検索を容易にしてリフレクションを支援する。
- (3) メディア表現された知恵のリソースの提供、作成と検索のためのツール：
問題の解決事例やその実世界でのコンテキストを蓄積し、知恵の視点で検索して比較対照することが出来る。
- (4) 解決過程をガイドする仕組み：
対話的に解決過程をモニタし、要求に応じた介入度でガイドする。問題の型ごとで作り込まれる。さらに高度な支援の可能性として、学習者の振る舞いに基づく知恵の使い分けの支援、解決方略発見のためのヒュリスティックスによる支援、低レベルの問題解決エキスパートシステムを相手に問題生成と知識管理を行わせて成長させる、などが挙げられる。

「コンピュータ利用」分野で解説を予定するキーワード

CMI;
学習支援システム(CAI,ITS,ILE);
HCI;
訓練システム;
発見学習支援;
問題解決支援;

概念学習;
スキル獲得支援;
マイクロワールド,シミュレーション,ゲーム;
プログラミング学習支援;
第二言語学習支援システム;
発想支援システム;

日本教育工学会 第19回全国大会のお知らせ (第2報)

日本教育工学会第19回全国大会を、下記のように岩手県立大学において開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。この第2報では、研究発表申し込み時に必要な書式や、原稿の書式等についても掲載していますので、よくお読みになり奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2003年10月11日(土)～12日(日)(2日間)

会場：岩手県立大学

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52

TEL 019-694-2000 FAX 019-694-2001

<http://www.iwate-pu.ac.jp/>

2. 大会日程

| 第1日 10月11日(土) | 第2日 10月12日(日) |
|----------------------|---------------------|
| 9:00～9:30 受付 | 8:30～9:00 受付 |
| 9:30～12:00 一般研究発表1 | 9:00～12:00 一般研究発表3 |
| 12:00～13:30 昼食及び展示見学 | 12:00～13:00 昼食 |
| 13:30～14:00 全体会 | 13:00～15:30 課題研究発表 |
| 14:00～16:00 シンポジウム1 | 15:45～17:45 シンポジウム2 |
| 16:15～18:15 一般研究発表2 | |
| 18:30～20:30 懇親会(大学内) | |

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

1) シンポジウム1(大会1日目)

岩手県立大学・西澤潤一学長による基調講演とディスカッションを行います。

このシンポジウムは非会員の方にも公開されます。

2) シンポジウム2(大会2日目に次の二つのシンポジウムを並行して行います)

シンポジウム2-1

テーマ：

教育工学の研究法論を探る

コーディネータ：

赤堀侃司(東京工業大) 矢野米雄(徳島大)

司会：

佐伯胖(青山学院大)

登壇者

山内祐平(東京大) 教育実践研究の立場から

鈴木克明(岩手県立大) 教育デザインの立場から

向後千春(早稲田大) 認知心理学の立場から

池田 満(北陸先端大) システム開発の立場から

指定討論者

岡本敏雄(電通大)

趣旨

教育工学研究の分野が多岐にわたっていることは、よく知られている。システム開発の研究、授業や教員養成に関わる研究、メディアの効果に関する研究、認知プロセスに関する研究、情報教育、実践的な研究など、きわめて多くの分野を扱ってきた。近年、多分野を融合もしくは総合しながら、新しい研究分野を創造する試みが多くなされてきたが、教育工学はその出発点から、総合的であり、実践的であり、現実的であった。しかし、その総合的なアプローチは、多くの価値観が混在することが前提であり、これを融合するかがいかに難しいかを、経験的に知っている。いかに価値観を共有するかが、教育工学研究には不可欠である。

そこで、本学会として、教育工学研究の方法論を、昨年に引き続き、探っていきたい。シンポジウムでは、各分野の研究者が、それぞれの研究アプローチを述べ、アプローチの違いと方法論の共有を目指して、議論する。

シンポジウム 2 - 2

テーマ：

「教育の情報化」における諸外国の現状と特徴の比較～我が国の「情報化」を進めるために～
コーディネータ：

園屋高志（鹿児島大）、山田恒夫（メディア教育開発センター）

司会：

南部昌敏（上越教育大）

登壇者

黒田 卓（富山大） アメリカの例

久保田賢一（関西大） イギリスの例

影戸 誠（日本福祉大） 韓国の例

黒上晴夫（関西大） オーストラリアの例

趣旨

我が国では、周知の通り本年4月から高等学校普通教科「情報」が実施され、小学校から高等学校までの体系的な情報教育が展開されつつある。また国の施策では、平成17年度までに各教室でのコンピュータや情報通信ネットワークの利用を可能とし、「わかる授業の実現」と「情報活用能力の育成」を目指して、「教育の情報化」が推進されている。

一方、諸外国においても、「情報化」はそれぞれの国に適した形で進められている。

そこで、外国でのその実践について、特徴的なものや示唆を与えるようなもの、さらに問題点等を登壇者に紹介していただくと共に、それらを通して我が国の「教育の情報化」を推進していくための方策を提起していただき、フロアからの質問、意見などを交えて考えていきたい。

（2）課題研究

以下のように8件のテーマが設定されています。

（K-1）高等教育における教育方法の改善と評価

コーディネータ：澤本和子（日本女子大）、東原義訓（信州大）

文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」事業の開始に象徴されるように、大学を代表とする高等教育における質の充実は、21世紀を向かえた日本にとって緊急の課題となってきた。

教育課程の工夫改善、教育方法の工夫改善、国際交流、学生サービス、社会人教育など、様々な局面での取り組みに対し、教育工学はその課題の解決に大いに貢献することが期待できる。すでに、ファカルティー・ディベロップメント（FD）として、マルチメディアの有効活用、学習コミュニティの形成、学習評価支援システムの活用、FD支援システムの活用などの試みが見ら

れる。

本課題研究では、高等教育の改善に資する種々の取組のうち、教育方法の改善や評価などに関する特色ある優れたものを紹介いただき、教育工学が如何に貢献しているか、また、新たな教育工学としての課題は何かなどを探る。

(K - 2) ”確かな学力”を保証する授業研究

コーディネータ：岡部昌樹（金沢星稜大） 本間明信（宮城教育大）

コンピュータやインターネットなどの新しいメディアの活用研究やカリキュラム開発研究と日常の授業実践を有機的に結びつける授業研究の重要性が叫ばれている。さらに、これまでの授業研究の方向性や進め方について、量的手法や質的手法を問わず再考の重要性も指摘されている。

”生きる力”を全面に打ち出した学習指導要領が完全実施される中で、更なる教育改革の重要なポイントとして、”確かな学力”をどう保証していくかが、学校の内外から問われている。このような状況下において、今一度、授業研究の中核に、授業設計と評価規準、評価活動との連動の在り方を据え、学習内容や活動の組織化、学習形態を含む学習環境のデザインについて、幅広く知見を共有したい。

キーコンセプトである、”少人数授業・習熟度別指導”、”学習者理解”、”基礎・基本の徹底”、”発展学習”、”学習意欲の喚起”、”学びの機会の充実”等に対して、教育工学が如何に貢献すべきかについて知見を共有したい。

(K - 3) 教員養成・教師教育における情報技術の利用

コーディネータ：浦野 弘（秋田大） 大河原 清（岩手大）

この課題研究は、前回好評だった課題研究「教員養成・教師教育における情報技術の利用」を継承するものである。

例えば、教員養成段階での Web サイト利用の指導案の提示や相互利用、採用段階での教員採用試験対策での利用、大学における現職教員の研修段階での Web サイト利用が試行されている。そこでは、学習者相互の意見を交換し表明することを通しての協調学習が実現している。また教員の 10 年研修の実施に向けて、大学と教育委員会の連携が深まり、遠隔地からの現職教員の学習を支援するのに Web サイト利用の協調学習は可能性が高いものと思われる。

以上のような教員の養成、採用、研修等の段階における Web サイト利用に限らず、教員養成・教師教育における情報技術の利用について、考え方やアイデア提案を含めての多くの先生方の研究発表を期待している。

(K - 4) 学習コンテンツ流通・再利用を促進する技術と社会的枠組

コーディネータ：大久保昇（内田洋行） 山田 恒夫（メディア教育開発センター）

学校でも家庭でも、マルチメディアパソコン、高速広帯域インターネットなど、ICT をめぐる環境は急速に整備されつつある。現在、利用拡大の主たる律速要因の 1 つになっているのが、高品質学習デジタルコンテンツの蓄積・供給である。

ニーズの拡大に高品質コンテンツの供給が必ずしも対応できていない現状や循環型社会に応じ資源を効率的に利用すべきだとの社会的要請を受けて、学習コンテンツ研究の分野では今、学習コンテンツの共有や再利用が注目を集めている。そして国内外で、学習オブジェクトの標準化や品質保証、学習ポータル・教材流通・再利用コンソーシアムの設立が進められている。

本セッションでは、初等中等教育、高等教育・生涯学習の分野における、XML、メタデータ、SCORM など、学習コンテンツおよびその参考情報の標準化・品質保証に関する技術・ノウハウ・制度、こうした動きを推進する国内外コンソーシアムの連携方策、教材開発流通における営利・非営利セクターの分業、著作権教育をはじめとする教材開発のための教育・普及活動などについて、数

件の発表を公募する。

(K - 5) e ラーニングにおけるデータ/テキスト・マイニング

コーディネータ：植野真臣（長岡技術科学大）、佐々木整（拓殖大）

近年、WBT を初めとする e ラーニング環境が現実化され、さまざまな場面で活用されている。

このような e ラーニング学習形態の特徴として、学習者の閲覧記録や操作ログ、対話ログ、反応結果、所要時間などの膨大なデータの蓄積と活用が考えられる。しかし、現状では、どのようなデータをどのような形式で蓄積するか、また、それとともにそれらのデータをどのように教育に有効活用するかについて十分に研究されているとはいえず、それは早急に研究すべき課題であると考えられる。以上の文脈より、本課題研究では、e ラーニングにおいて得られるデータの処理に関して、その獲得方法、データベース構造、新しいデータの処理手法について議論する。

(K - 6) 協調学習の分析・デザイン・実践・評価の技術

コーディネータ：矢野米雄（徳島大）、室田真男（東京工業大）

協調学習は様々な社会的な文脈（学校教育・企業教育・生涯教育など）の中で様々な目的のもとで行われている。また、それを支える教育工学の技術には既成の協調学習をよりよく支えることを目指すものもあれば、新たな学習形態を生もうという意欲的な試みもある。しかしながら、文脈・目的・技術の関係を明確にし、協調学習に関する工学的知見の相互関係を理解したうえで、学術的蓄積を目指した議論を深めることができていないのが現状である。本研究課題では、様々な文脈・目的のもとで、協調学習に関する理論研究・システム研究・実践研究を進めている研究者に最新の研究成果をお持ち寄りいただいたうえで、協調学習技術の蓄積を目指すために教育工学として何が重要かという点についてフロアを交えた議論に特に時間を割きたいと考えている。なお、本課題では「技術」という言葉で「協調学習の分析・デザイン・実践・評価のための工学的手法」を指すと考えており、様々な立場からの発表を歓迎する。

(K - 7) インターネットによる学習指導

コーディネータ：石川 賢（宇都宮大）、原 克彦（園田学園女子大）

情報通信技術の急速な発展とともに、インターネットの学校教育への普及やネットワークの高速化などの充実が図られつつある。また、初等中等教育では新学習指導要領が開始となり、インターネットを活用した学習指導が展開されつつある。このため、さらなる学習指導支援システムの開発・改善が課題となっている。

そこで本課題研究では、インターネットを活用した学習指導の展開やその課題について検討する。課題としては「総合的な学習の時間」をはじめ各教科等の様々な時間でのコンピュータや情報通信ネットワークの活用、Web ベース学習、e-learning、学習指導用コンテンツ開発、テレビ会議システム等の活用など、広範なテーマでの実践的な報告を期待する。技術・家庭科「情報とコンピュータ」や高等学校教科「情報」における活用についても歓迎する。

(K - 8) 生涯学習社会における情報教育

コーディネータ：成田雅博（山梨大） 村瀬康一郎（岐阜大）

学習指導要領の改訂をうけ、総合的な学習の時間や各教科の時間の中で情報教育が広く実践されるようになってきた。とりわけ、小学校総合的な学習の時間や、中学校技術家庭科の「情報とコンピュータ」、高等学校普通教科情報などにおける実践の蓄積が多くなってきているが、生涯学習社会の中、学校教育段階においてどのように情報教育をすすめたらよいか、具体的な検討が求められている。

本課題研究においては、情報教育のモデルとなりうる授業の実践報告や、実践と関係させながら情報教育の目標・内容・方法・評価等の理論に関する研究報告を公募し、議論を深めていきたい。

またこれに関連して、情報教育の実践をすすめる教師の力量形成をはかる教員養成カリキュラム・現職教員研修プログラムや、情報環境整備に関わる報告も歓迎する。

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお、「その他」を選んだ場合は、分野及び想定されるセッション名を記述してください。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 I(情報活用能力の育成等) (3)情報教育 II(教科指導等)
(4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)障害児・者教育 (7)社会人教育・生涯学習
(8)企業内教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践
(12)高等教育における教育方法 (13)教育ソフトウェア開発 (14)学習コンテンツ開発
(15)Web ベース学習・訓練システム (16)認知モデルと知的学習支援システム (17)インターネットを利用した授業実践
(18)教育メディア (19)遠隔教育・遠隔学習 (システム)
(20) 遠隔教育・遠隔学習 (運用・評価) (21)協調学習と協調作業 (22)その他

(4) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは教育工学研究の国際的流れに対する本学会の寄与であるとともに、国際的な場において研究発表ならびに討論を有意義なものとするための、とくに若い研究者に対する訓練の場でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたい。なお、発表は一般研究発表 1～3 のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

(5) 自主シンポジウム

会員の自主的な企画・運営によるシンポジウムです。大会企画委員会が本学会にふさわしいテーマであり、運営的にも可能であると認めた場合に開催が許可されます。なお、テーマと趣旨はプログラムに掲載されますが、予稿は論文集には掲載されません。開催希望者は、代表者の氏名・所属・連絡先、シンポジウムのテーマ、300～400字の開催要旨、プログラムの概要をA4サイズで1ページにまとめたものを(書式は任意) 7月4日(金)必着で大会企画委員会に郵送、またはWordかPDFのファイル形式で、jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jpに送付してください。

発表時間について

発表時間は以下の予定です。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] 発表 15分 質疑応答 5分

[English Session] 発表 15分 質疑応答 5分

4. 大会までのスケジュール

7月 4日(金) 課題研究発表申込書・課題研究プロポーザル(2ページ)
及び自主シンポジウム企画書提出締切(必着)

7月 25日(金) 課題研究・自主シンポジウム採否決定通知

8月 8日(金) 課題研究発表原稿(4ページ)提出締切(必着)

一般研究発表/English Session 申込書・原稿(2ページ)提出締切(必着)

9月 19日(金) 参加費事前送金期限(それ以降は送金しない)

5. 大会への発表申し込み

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。
- ・この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし、発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・English Session]に、それぞれ1件(1人合計最大3件)を発表者として申し込むことができます。自主シンポジウムにはその制限は適用されません。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込みはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも申し込みをしている場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階: 発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザル(A4版2ページ)と課題研究発表申込書(後に掲載)を提出します。

締め切り: 7月4日(金)

提出先: E-mailの場合: jet-kadai@mr.hum.titech.ac.jp

(発表プロポーザルはPDFあるいはWordの添付ファイルとしてください)

郵送の場合(書留にしない): 〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 大学院社会理工学研究科 室田研究室気付 大会企画委員会 宛

- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。
- ・発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月25日(金)までに申込者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・ A4 サイズで 4 ページ。原稿用紙は送付しません。原稿見本（後に掲載）または大会ホームページに示される内容に従って作成してください。
- ・ 最終原稿（紙）のオリジナルとコピー1部、ならびに大会原稿提出票（次号に掲載）に記入したものを提出してください。
- ・ 郵送または宅配便にて、8月8日（金）必着で下記の宛先までお送りください。
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門5森ビル2F
日本教育工学会事務局 宛（プロポーザル提出先と異なります）
- ・ 発表時間の希望には応じられません。

(4)一般研究及び English Session の発表申し込み方法

- ・ 8月8日（金）までに最終原稿を提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・ 一般研究と English Session の原稿は共に、A4 サイズで 2 ページです。1 ページのものは受け付けません。
- ・ 原稿用紙は送付しません。原稿見本（後に掲載）または大会ホームページに示される内容に従って作成してください。
- ・ 最終原稿（紙）のオリジナルとコピー1部、ならびに大会原稿提出票（後に掲載）に記入したものを提出してください。
- ・ 郵送または宅配便にて、8月8日（金）必着で下記の宛先までお送りください。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門5森ビル2F

日本教育工学会事務局 宛

- ・ 発表日時希望には応じられません。

6. 会場の設備について

すべての会場で、プロジェクタ、OHC、ビデオ（SVHS）、インターネットに接続されたデスクトップパソコン（Windows）、インターネット接続のイーサネットケーブルを使用することができます。OHPはOHCで投影していただくことになります。

発表会場のデスクトップパソコンへのプレゼンテーション・ファイルのインプリメンテーションは、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、参加者がインターネットを利用できるように、無線LANアクセスポイントとハブを休憩室に用意しますのでご活用ください。

7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は下記へお問い合わせください。

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 鈴木克明研究室内

日本教育工学会大会実行委員会 宛

電子メールでの問い合わせ先：ksuzuki@soft.iwate-pu.ac.jp

8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、次号に同封される郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、9月19日（金）までに参加費をお振込みください。振込みによって受付とさせていただきます。9月19日（金）以降は、振込みをなさらないで下さい。当日会場にて、当日参加を受け付けます。

| | | | | |
|-------|----|---------------|-----------------|------------|
| 大会参加費 | 事前 | 3,500円（一般） | 2,000円（本学会学生会員） | 9月19日（金）まで |
| | 当日 | 4,000円（一般） | 2,500円（本学会学生会員） | |
| 論文集代 | | 4,500円 | | |
| 論文集送料 | | 500円（参加しない場合） | | |
| 懇親会費 | | 5,000円 | | |

9. 宿泊案内について

学会開催日は、連休と重なっておりますので、混雑が予想されます。近畿日本ツーリスト盛岡支店をご利用いただくなど（盛岡市内のホテル案内を同封）宿泊・交通機関のご準備を早めに行われますことをお勧めします。なお、大会会場の岩手県立大学から車で20分ほどの山間に、休暇村岩手網張温泉があります。ご希望の方は電話でお申し込みください。休暇村岩手網張温泉
<http://www.qkamura.or.jp/iwate/>

予約電話：019-693-2211

東北自動車道盛岡ICより約30km、同滝沢ICより約20km

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス：

jet2003@mr.hum.titech.ac.jp

大会企画委員会 委員長：園屋 高志（鹿児島大）

副委員長：鈴木 克明（岩手県立大）

委員：

赤堀 侃司（東京工業大） 石川 賢（宇都宮大） 植野 真臣（長岡技術科学大）

浦野 弘（秋田大） 大河原 清（岩手大） 大久保 昇（内田洋行）

岡部 昌樹（金沢星稜大） 佐々木 整（拓殖大） 澤本 和子（日本女子大）

成田 雅博（山梨大） 南部 昌敏（上越教育大） 原 克彦（園田学園女子大）

東原 義訓（信州大） 本間 明信（宮城教育大） 村瀬 康一郎（岐阜大）

室田 真男（東京工業大） 矢野 米雄（徳島大）

山田 恒夫（メディア教育開発センター） 吉田 貞介（金沢学院大）

課題研究発表申込書（締切：7月4日(金)）

E-mail による発表申込者は、この申込書は不要です。

発表者 _____ 会員番号（ラベル紙参照） _____ 入会手続中（ 印）

連名者 _____ 原稿提出までに送金

所 属 _____

住 所 〒 _____

Tel _____ Fax _____ E-mail _____

表 題 _____

A4 サイズ 2 ページの発表プロポーザルを別紙として添付すること

発表希望セッションに 印をご記入ください。

採否は、7月25日（金）までに申込者に連絡します。

- K-1 「高等教育における教育方法の改善と評価」
- K-2 「”確かな学力”を保证する授業研究」
- K-3 「教員養成・教師教育における情報技術の利用」
- K-4 「学習コンテンツ流通・再利用を促進する技術と社会的枠組」
- K-5 「eラーニングにおけるデータ/テキスト・マイニング」
- K-6 「協調学習の分析・デザイン・実践・評価の技術」
- K-7 「インターネットによる学習指導」
- K-8 「生涯学習社会における情報教育」

日本教育工学会第19回全国大会

The 19th Conference on Educational Technology

岩手 太郎

Taro IWATE

岩手県立大学

Iwate Prefectural University

<あらし> 日本教育工学会第19回全国大会が平成15年10月11日(土)~12日(日)の2日間、岩手県立大学で開催される。最終原稿及び大会原稿提出票の提出先が今回から本学会事務局に変わったので、注意されたい。ただし、課題研究の発表プロポーザル提出先は従来通り、東京工業大学である。これらについては本文で確認していただきたい。原稿締切は、平成15年8月8日(金)必着である。原稿は郵送または宅配便で送付すること。

原稿はオフセット印刷をする都合上、写真や図版は、直接プリントするか、貼り付けていただきたい。

<キーワード> 下のキーワード一覧を参考に、5~6個のキーワードを列挙する。

本文は2段組にしてください。

| キーワード一覧 関連すると思われるキーワードを列挙してあります。記入の参考にして下さい。 | | | | | |
|---|------------|------------------|-----------|-----------------|---------|
| 教育目標 | カリキュラム | 教育課程 | 総合的な学習の時間 | 自己学習力 | |
| 教育情報 | CAI | 教育情報処理 | データ解析 | 数理モデル(例:グラフ理論) | |
| シミュレーション | 資料収集 | データ解析ツール | 情報教育 | 情報リテラシー | |
| 情報処理システム | プログラムミング言語 | | 情報処理教育 | 図書館情報学 | |
| 学校事務処理 | 統計処理 | 情報検索 | データベース | 情報管理 | システム評価 |
| 標準化 | システム設計 | システム開発 | ネットワーク | Web利用 | インターネット |
| Eメール | 情報倫理 | インターネット倫理 | | 著作権 | |
| 知識ベース | 知識工学 | 知的学習支援システム | | 訓練支援システム 学習者モデル | |
| 思考モデル | 知識表現 | 推論機構 | 知識獲得 | 言語インタフェース | |
| エキスパートシステム | | 人工知能 | 認知発達 | 知的インタフェース | |
| テキストマイニング | | データマイニング | 思考の外化 | バーチャルリアリティ | |
| 教育メディア | 教材管理 | 教材開発 | 教具開発 | 教育機器管理 | 学習コンテンツ |
| インストラクショナルデザイン | | 教育ソフトウェア開発 | | ヒューマンインタフェース | |
| 教育機器利用 | 遠隔教育・学習 | 放送教育 | 視聴覚教育 | メディア教育 | |
| マルチメディア | 学習環境 | コミュニケーション | | メディアリテラシー | |
| 教授法 | 授業スキル | 学習スキル | 教育評価 | 学力調査 | 教育統計 |
| 教育測定 | 評価項目 | テスト | 学力 | 知能 | 適性 |
| 性格 | 意欲 | 学習指導 | 授業研究 | 授業分析 | 授業設計 |
| 授業実践 | 生徒指導 | 生活指導 | 進路指導 | 教育方法 | 教育工学 |
| 協調学習 | CSCL | グループ学習 | 研究方法論 | 質的研究 | |
| 教育経営 | 学級経営 | 教育施設(視聴覚ライブラリなど) | | 学校開放 | 学校規模 |
| 教育設備 | オープンスペース | 学習環境 | 校具 | 学校保健 | 管理組織 |
| 教育施策 | 教育制度 | | | | |

日本教育工学会 大会原稿提出票

(必要に応じてコピーして下さい)

原稿提出先 (8月8日必着)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1

虎ノ門5森ビル2F

日本教育工学会事務局 宛

原稿(オリジナルとコピー1部)と共に、この「大会原稿提出票」を必ずお送り下さい。

題名: _____

シンポジウム以外の発表者は会費納入の会員でなければなりません。(原稿提出時に確認できないと発表取り消しになります)

| 著者(発表者に 印) | 所 属 | 会員番号 |
|------------|-----|------|
| | | |

発表部門 (印) 1. シンポジウム 2. 課題研究 3. 一般研究 4. English Session

1. シンポジウム (該当のシンポジウムに 印をつけてください)

1. 教育工学の研究方法論を探る
2. 「教育の情報化」における諸外国の現状と特徴の比較～我が国の「情報化」を進めるために～

2. 課題研究 (申込み課題番号に 印をつけてください)

- K-1 「高等教育における教育方法の改善と評価」
- K-2 「 ” 確かな学力 ” を保証する授業研究」
- K-3 「教員養成・教師教育における情報技術の利用」
- K-4 「学習コンテンツ流通・再利用を促進する技術と社会的枠組」
- K-5 「eラーニングにおけるデータ/テキスト・マイニング」
- K-6 「協調学習の分析・デザイン・実践・評価の技術」
- K-7 「インターネットによる学習指導」
- K-8 「生涯学習社会における情報教育」

3. 一般研究

発表希望セッションに , 関係セッションに をつけてください。ご希望に添えない場合があります。

なお、「(22)その他」を選んだ場合は、分野及び想定されるセッション名を記述してください。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| (1) 語学教育・国際理解 | (12) 高等教育における教育方法 |
| (2) 情報教育 I (情報活用能力の育成等) | (13) 教育ソフトウェア開発 |
| (3) 情報教育 II (教科指導等) | (14) 学習コンテンツ開発 |
| (4) メディア教育・メディアリテラシー | (15) Web ベース学習・訓練システム |
| (5) 教師教育 | (16) 認知モデルと知的学習支援システム |
| (6) 障害児・者教育 | (17) インターネットを利用した授業実践 |
| (7) 社会人教育・生涯学習 | (18) 教育メディア |
| (8) 企業内教育 | (19) 遠隔教育・遠隔学習 (システム) |
| (9) 教育評価・データ解析 | (20) 遠隔教育・遠隔学習 (運用・評価) |
| (10) 授業研究 | (21) 協調学習と協調作業 |
| (11) 授業設計・実践 | (22) その他() |

4. 連絡先等

住所 〒 _____

所属 _____ 氏名 _____

電話 _____ Fax _____

E-mail _____

日本教育工学会第9期第15回理事会議事録

日 時：平成15年2月1日(土) 16:05～17:40

会 場：社団法人日本教育工学振興会(JAPET)

出 席：清水康敬会長、赤堀侃司副会長、池田 満・岡本敏雄・坂元 昂・正司和彦・
園屋高志・中山 実・前迫孝憲・美馬のゆり・横山節雄理事、小林常一事務局次長

1. 第9期第14回理事会議事録について、資料1に基づき承認された。
2. 会員の移動について、資料2に基づき清水会長より説明があり、正会員9名、准会員2名、学生会員7名の入会を承認した。また、退会者2名を承認した。
3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
赤堀担当理事より資料3に基づき、和文誌、英文誌、ショートレター等の編集状況について報告があった。
 - (2) ニュースレター委員会
清水会長より3月15日(土)ワークショップ、3月29日(土)研究会に合わせて次号ニュースレター原稿の締め切りを2月21日(金)と設定した旨報告された。
 - (3) 出版委員会
清水会長より伊藤委員長から提出された資料4に基づき報告があった。教育工学辞典のキーワードの解説をニュースレターに掲載する件につき、執筆キーワードの選定については出版委員会で再検討していくこととなった。
 - (4) 企画委員会
清水会長より永野委員長から提出された資料5に基づき報告があった。特に、6月7日(土)に開催予定のシンポジウムのテーマについて意見交換があった。
 - (5) 研究会委員会
岡本委員長より資料6に基づき、平成14年度の活動報告、15年度の活動計画について報告があった。
 - (6) 大会企画委員会
園屋委員長より資料7に基づき、第19回大会のシンポジウム、課題研究のテーマ、開催要領等について報告があった。
 - (7) 学会ホームページ
特に報告はなかったが、論文の電子投稿について意見交換があった。
 - (8) 選挙管理委員会
横山委員長より資料8に基づき、役員改選の第一段階投票の開票報告があった。
4. その他
 - ・協賛の承諾(報告)
「平成15年度工学・工業教育研究講演会」 (社)日本工学教育協会
「第19回ファジィシステムシンポジウム～知と情の科学へ～」日本知能情報ファジィ学会
 - ・後援名義使用の承諾(報告)
「未来への航海～子どもたちが拓くアジアの未来～」 日本放送協会
 - ・第19期日本学術会議会員の候補者及び推薦人の届け出に関する説明会の開催について
 - ・登録学術研究団体のデータベースの構築について 日本学術会議
 - ・平成14年度電子図書館サービス説明会の開催について 国立情報学研究所
 - ・学術刊行物の指定審査結果について 東京郵政局
 - ・次回理事会の日程について
第9期16回：平成15年3月8日(土) 16:00～18:00 以上

新入会員

(2002年2月2日～2003年3月8日)

■ 正会員

22名

尹 明 (早稲田大学)
 上村 隆一 (北九州市立大学)
 乙名 健 (日本アイ・ピー・エム研修サービス株式会社)
 上山 輝 (富山大学)
 河角 哲也 (三芳町立唐沢小学校)
 孔 泳泰 (師範大学)
 佐藤 恵 (聖霊女子短期大学)
 佐藤 喜一 (宮城工業高等専門学校)
 澤谷 孝志 (淑徳日本語学校)
 杉本 明子 (国立国語研究所)
 須田 宇宙 (千葉工業大学)
 竹俣 一也 (金沢工業大学)
 田中 幸子 (神奈川大学)
 仲野 巧 (豊田工業高等専門学校)
 野口 亜希子 (東和大学)
 野田 隆広 (NTTサイバーソリューション研究所)
 深林 太計志 (静岡大学)

三浦 信宏 (愛知淑徳大学)
 森木 一紀 (武蔵工業大学)
 山本 芳人 (東京理科大学)
 横山 彰三 (宮崎医科大学)
 横山 美紀 (公立ほこだて未来大学)

■ 学生会員

12名

印東 葵 (木更津工業高等専門学校)
 遠藤 正雄 (京都大学)
 岡本 香 (広島大学大学院)
 倉田 伸 (長崎大学大学院)
 呉 剣明 (早稲田大学大学院)
 権 五杓 (東北大学大学院)
 佐藤 健 (慶應義塾大学大学院)
 曹 圭福 (東京外国語大学大学院)
 林 秀彦 (北陸先端科学技術大学院大学)
 松岡 輝 (長崎大学)
 三好 康夫 (徳島大学大学院)
 山下 浩次 (長崎大学)

学会日誌

- 5月31日(土) 研究会「社会的構成主義指向の教育」 (長崎大学)
- 6月 7日(土) 総会・シンポジウム (東工大デジタル多目的ホール)
- 6月13日(金) 7月の研究会の申し込み締切日
- 7月 4日(金) 大会の課題研究の発表プロポーザルおよび自主シンポ企画書提出締切日
- 7月27日(日) 研究会「学力低下と授業改善」 (滋賀大学)
- 8月 8日(金) 大会の課題研究の発表原稿の提出締切日(必着)
 一般研究発表等の申込書・原稿提出締切日(必着)
- 10月11日(土)～12日(日) 第19回全国大会 (岩手県立大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (jet-editor@japet.or.jp)
 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jet-branch@nime.ac.jp)
 ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・ニュースレター編集委員会
 (jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp)
 その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局 (jet-office@japet.or.jp)

ニュースレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:竹谷 誠, 委員:松居 辰則, 佐々木 整
 拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426-65-1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会ニュースレター No.122

2003年 5月17日 発行人 清水 康敬

発行所 日本教育工学会事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階

TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

http://www.japet.or.jp/jet/ 郵便振替 00180-0-111042